

1. 輝く子どもたち ①子ども・子育て支援の推進

評価者	健康福祉部長 廣本 知律	
令和4年度 実行宣言		
<p>子育てに不安をかかえる保護者に対し、産後ケア事業や相談体制を充実するとともに、福祉部門と情報共有のうえ、他職種で連携し支援を行い、松阪版ネウボラを推進します。</p>		
↓		
令和4年度 評価	☆評価	☆☆☆
<p>産後ケア事業については、助産師による訪問型を開始し、宿泊型、通所型の利用者が増えました。利用者アンケートでは、「非常に満足」「満足」が97.0%の結果となり好評でした。 令和5年1月から、伴走型相談支援を「まつさかすくすく応援パッケージ」として、こども支援課と連携しながら開始し、妊娠期からの途切れない支援を充実させました。</p>		
↓		
令和5年度 実行宣言		
<p>子育てに不安をかかえる保護者に対し、伴走型相談支援の充実、産前産後サポート事業を新規開始し、松阪版ネウボラを推進するとともに、令和6年度の「こども家庭センター」設置に向け、母子保健、児童福祉を担う健康づくり課、こども支援課が連携し体制整備を図ります。</p>		

評価者	福祉担当理事 榊原 典子	
令和4年度 実行宣言		
<p>こども及び一人親家庭等医療費助成を実施し、子どもの保健の向上に努めます。</p>		
↓		
令和4年度 評価	☆評価	☆☆☆
<p>こども及び一人親家庭等医療費の助成を円滑に実施することができました。</p>		
↓		
令和5年度 実行宣言		
<p>こども及び一人親家庭等医療費助成を実施し、子どもの保健の向上に寄与するとともに福祉の増進を図ります。</p>		

第2章 各施策の「評価」と「実行宣言」

評価者	こども局長 谷中 靖彦	
令和4年度 実行宣言		
<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所・保幼小中学校・警察等の関係機関と連携をより密にして児童虐待の早期発見・早期解消に努めます。 ・重層的支援体制として、ヤングケアラーの支援、未就園児の保護者の相談等に取り組みます。 ・子ども発達総合支援センターは地域との連携を強化し、「途切れのない支援」を推進します。 		
↓		
令和4年度 評価	☆評価	☆☆☆
<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待への対応では、児童虐待相談件数は205件と前年度に比べ49件増加しましたが、死亡等の重篤な案件は発生しませんでした。 ・地域支援として保育所等訪問支援及び障害児相談支援の2事業に取り組んでいますが、開始2年目となる令和4年度はともに利用者数が増加し、事業の周知が図られており途切れのない支援へつなげることができました。 ・令和4年度の国の緊急対策の低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金、伴走型相談支援の「まつさかすくすく応援パッケージ」等に伴う経済的支援を早急に対応し、いち早く支給できたことで生活の支援をすることができました。 		
↓		
令和5年度 実行宣言		
<ul style="list-style-type: none"> ・毎年増加する児童虐待相談に対して、引き続き児童相談所等の関係機関と連携をより密にして児童虐待の早期発見・早期解消に努めます。 ・令和6年度の「こども家庭センター」設置に向け、母子保健、児童福祉を担う健康づくり課、こども支援課が連携し体制整備を図ります。 ・子どもへの支援とともに家族支援であるペアレントトレーニングの普及に取り組みます。 		

評価者	教育長 中田 雅喜・教育委員会事務局長 刀根 和宜	
令和4年度 実行宣言		
<p>放課後児童クラブの支援員の確保と保護者負担の軽減という課題解決に向けて、社会福祉法人等への委託を更に進めます。また、保育の中身についても、学校と協働して、子どもたちが興味・関心を持てる取組を行います。</p>		
↓		
令和4年度 評価	☆評価	☆☆☆
<p>社会福祉法人等への委託先として、民間の放課後児童クラブを運営している営利法人にも幅を広げることで、株式会社1社を含む3法人が受託し、委託を推進することができました。</p> <p>学校と協働した保育活動については、体育館施設の活用やタブレットを使った学習を進めることができました。しかしながら、地区水泳活動がストップするなどコロナ禍の影響を受け、取組は限定的となりました。</p>		
↓		
令和5年度 実行宣言		
<p>放課後児童クラブ運営に係る保護者負担軽減や子どもたちの充実した保育を進めるために、社会福祉法人等への委託推進を継続します。併せて、アフターコロナにより、クラブ利用のニーズが高まっていることから、保育場所や支援員の確保などサービス提供体制の増強に向けた取組を進めるとともに、夏休み等、長期休暇期間中に放課後児童クラブの利用を希望する子どもの受入れを公営のモデル事業として取り組みます。</p>		

第2章 各施策の「評価」と「実行宣言」

施策の進捗状況							
数値目標 ①	項目	乳児家庭全戸訪問実施率				目標種別	↑
	評価者	健康福祉部長 廣本 知律					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	100 %	100 %	100 %	100 %	
	実績	98.7 %	91.3 %	91.0 %	97.8 %	—	
	評価	—	E	E	E	—	
	今後の方針	伴走型相談支援の面談として、出産後の育児の悩みや疲れに寄り添った相談支援を実施します。					
数値目標 ②	項目	児童虐待による死亡等重篤件数				目標種別	→
	評価者	こども局長 谷中 靖彦					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	0件	0件	0件	0件	
	実績	0件	0件	0件	0件	—	
	評価	—	S	S	S	—	
	今後の方針	今後も引き続き、死亡等重篤な案件を発生させないよう取り組みます。					
数値目標 ③	項目	12歳児のむし歯がない人の割合				目標種別	↑
	評価者	健康福祉部長 廣本 知律					
	年度	平成30年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	80.0 %	80.0 %	80.0 %	80.0 %	
	実績	60.0 %	62.5 %	— %	66.9 %	—	
	評価	—	E	—	D	—	
	今後の方針	令和5年度から、新たに中学校でフッ化物洗口事業を開始します。保育園、幼稚園、認定こども園、小学校での継続実施を支援します。					
数値目標 ④	項目	運営を委託する放課後児童クラブ数				目標種別	↑
	評価者	教育長 中田 雅喜・教育委員会事務局長 刀根 和宜					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	14 クラブ	16 クラブ	18 クラブ	20 クラブ	
	実績	13 クラブ	13 クラブ	14 クラブ	17 クラブ	—	
	評価	—	E	D	B	—	
	今後の方針	保護者負担軽減や子ども達の充実した保育に向けて、より一層取り組みます。					

関係所属
健康づくり課、地域福祉課、こども支援課、こども未来課、子ども発達総合支援センター、生涯学習課、企業誘致連携課、学校支援課

1. 輝く子どもたち ②未就学児への支援

評価者	こども局長 谷中 靖彦		
令和4年度 実行宣言			
<p>松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針をもとに引き続き園の再編統廃合の取組を進めるとともに、潜在保育士登録促進事業で潜在保育士の掘り起こしを行い、保育現場への復職就職に向けての取組を行うなど待機児童の解消をめざします。</p>			
↓			
令和4年度 評価	☆評価	☆☆	
<p>「松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針」に基づき、阿坂地区及び港地区で意見交換会を実施する中で閉園基準の運用を定め、これを適用しました。また、令和5年度の園児が少なくなる恐れのある西黒部幼稚園について、地域住民や保護者の方に現状と閉園基準について説明しましたが、その後、園児数が多い園への転園者が続出したことで、令和5年度の総園児数が1人の見込みとなったため、令和5年度の休園を決定しました。大石地区の認定こども園の取組については、暫定的な対応として、令和5年度からみなみ保育園を認定こども園とし、大石幼稚園を令和5年度末で閉園するとしました。令和4年度から開始した潜在保育士登録促進事業については、「潜在保育士」の意味が分からないなど、十分な周知ができなかったことから登録人数は21人でした。</p>			
↓			
令和5年度 実行宣言			
<p>引き続き公立園の再編統廃合の取組を進めるとともに、新たに始める子育て支援事業の育休復帰者の入園予約制、認可外保育施設等での一時預かり、赤ちゃんの駅設置認証事業など、より一層、子育て支援施策を充実させます。</p>			

施策の進捗状況							
数値目標 ①	項目	保育園の待機児童数(10/1国基準)				目標種別	↓
	評価者	こども局長 谷中 靖彦					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	50 人	50 人	50 人	50 人	
	実績	117 人	37 人	42 人	29 人	—	
	評価	—	S	S	S	—	
	今後の方針	令和2年度以降、待機児童数が50人を下回る状況となっており、令和4年度においては、4月時点で0歳児の受入れ可能数が50人を超える状況であった。今後も、入園申し込み状況も注視しながら、待機児童対策を行っていきます。					
数値目標 ②	項目	幼稚園の「預かり保育」実施園数				目標種別	↑
	評価者	こども局長 谷中 靖彦					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	4 園	10 園	10 園	10 園	
	実績	4 園	4 園	10 園	10 園	—	
	評価	—	A	S	S	—	
	今後の方針	実施園を拡大し令和5年度で3年を迎えた。しかし、園児数については、毎年減少にあり、預かり保育実施で入園児数の減少を食い止めることはできなかった。今後は、預かり保育利用状況を検証する中で、今後の展開を検討していきます。					

第2章 各施策の「評価」と「実行宣言」

数値目標 ③	項目	0歳児から2歳児を対象とした地域型保育事業施設数				目標種別	↑
	評価者	こども局長 谷中 靖彦					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	0 施設	1 施設	2 施設	3 施設	
	実績	0 施設	0 施設	1 施設	2 施設	—	
	評価	—	A	S	S	—	
	今後の方針	令和4年度以降の4月時点での0歳児の受入れには余裕が出てきたが、それでも一部の地域では入園が厳しい状況にある。今後は地域別の検証を進めていきます。					

関係所属
こども未来課

1. 輝く子どもたち ③学校教育の充実

評価者	教育長 中田 雅喜・教育委員会事務局長 刀根 和宜		
令和4年度 実行宣言			
<ul style="list-style-type: none"> ・「松阪市教育改革推進会議」を設置し、多様化・複雑化する教育課題や懸案事項の解決を図ります。 ・子どもたちの学びを支援する体制を充実し、子どもたちが生涯を通して生活を送ることができるよう、心身の健康問題に適切に対処できる自己管理能力と「自分の命は自分で守る」ための危機予測・危機回避能力を育成する健康教育・安全教育を推進します。 ・子どもたちの夢を実現するために、家庭や地域、学校が協働し、一人ひとりの個性を大切に、意欲的に未来を切り拓く力を育みます。 ・ICT環境や先端技術を最大限活用することにより、個別最適な学びや協働的な学びを支援するとともに、変化の激しい社会で自分らしい生き方を実現するために必要な情報活用能力など、学習の基盤となる資質や能力を育みます。 ・安全・安心で魅力ある学校給食の充実を図ります。 			
↓			
令和4年度 評価	☆評価	☆☆☆☆	
<ul style="list-style-type: none"> ・「松阪市教育改革推進会議」において、教育を取り巻く現状や課題、懸案事項について、共通認識を図りました。 ・就学援助や健康診断等の事業を適切に推進することで、経済的な理由で就学困難な児童生徒の保護者への支援、児童生徒及び教職員の心身の健康の保持増進に努めることができました。 ・コロナ禍にあっても、オンライン授業の実施や家庭学習の充実など、1人1台端末を活用しながら、学びを止めない取組を進め、学力向上や挑戦心・自己肯定感等の向上に成果が見られました。 ・急激な物価高が学校給食の物資調達などに大きな影響を与える中でも、栄養摂取基準を満たし、各学校において食育の推進が図れるよう学校給食を行いました。また、食物アレルギーを有する園児、児童、生徒に対して、安全性を最優先したきめ細やかな対応に努め、全ての子どもたちに安全安心な給食を提供することができました。 			
↓			
令和5年度 実行宣言			
<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の活性化については、子どもたちにとってより良い教育環境で学ぶことができる体制を構築するため、保護者の声を重視し、地域住民の十分な理解と協力を得るなど「地域とともにある学校づくり」の視点を踏まえて進めます。 ・子どもたちが生涯を通して充実した生活を送ることができることをめざし、変化の激しい環境と新たな健康課題に適切に対応できる自己管理能力の育成に取り組めます。 ・子どもたちが夢と希望をもち、自分の可能性を最大限に発揮できるよう、一人ひとりの個性を大切にしながら、自ら課題を見つけ解決していく確かな学力を育みます。 			

施策の進捗状況							
数値目標 ①	項目	学級満足度尺度調査(Q-U)の満足度				目標種別	↑
	評価者	教育長 中田 雅喜・教育委員会事務局長 刀根 和宜					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	65.0 %	65.0 %	65.0 %	65.0 %	
	実績	59.3 %	62.9 %	63.9 %	66.6 %	—	
	評価	—	C	B	S	—	
	今後の方針	全小中学校を対象にソーシャルスキルトレーニングを導入し、居心地のよい学級づくりを推進します。					

第2章 各施策の「評価」と「実行宣言」

数値目標 ②	項目	学校給食における地場産物の使用割合				目標種別	↑
	評価者	教育長 中田 雅喜・教育委員会事務局長 刀根 和宜					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	30.0 %	32.0 %	34.0 %	35.0 %	
	実績	28.9 %	26.9 %	30.4 %	30.1 %	—	
	評価	—	E	D	E	—	
	今後の方針	価格高騰や納入者の廃業など地場産物の確保が難しくなっています。地場産食材の優先調達は継続し、「ちゃちゃもランチ」に加え、市内・県内産の農産物を使用した新献立についても地場産物使用割合を高める取組を行います。また、現行重量ベースの地場産割合算出方法について金額ベースの導入検討を行っていきます。					
数値目標 ③	項目	小中学校における外国人児童生徒の就学率				目標種別	→
	評価者	教育長 中田 雅喜・教育委員会事務局長 刀根 和宜					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	実績	100.0%	100.0%	100.0%	99.7%	—	
	評価	—	S	S	E	—	
	今後の方針	外国人の子どもの教育を受ける権利を保障するため、就学実態調査を実施し、早期かつ適切な就学支援により就学率100%をめざします。					
数値目標 ④	項目	松阪市標準学力検査における標準スコアの平均				目標種別	↑
	評価者	教育長 中田 雅喜・教育委員会事務局長 刀根 和宜					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	50.0 P	50.1 P	50.3 P	50.5 P	
	実績	48.5 P	51.0 P	49.2 P	49.1 P	—	
	評価	—	S	D	D	—	
	今後の方針	カリキュラム・マネジメントを確立する取組を推進し、1人1台端末を活用した個別最適な学びや協働的な学びの充実を図ります。					
数値目標 ⑤	項目	家庭学習におけるICTの活用度				目標種別	↑
	評価者	教育長 中田 雅喜・教育委員会事務局長 刀根 和宜					
	年度	令和元年度(基準)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(目標)	
	目標	—	4.7 %	40.0 %	50.0 %	60.0 %	
	実績	4.6 %	4.7 %	65.5 %	73.5 %	—	
	評価	—	S	S	S	—	
	今後の方針	授業や家庭学習等においてICTを効果的に活用し、自ら学習を調整しながら課題発見・課題解決が行える能力を育むとともに、情報モラル・情報セキュリティ教育を通じて、情報を正しく理解し、発信する情報活用能力の育成に取り組めます。					

関係所属
教育総務課、学校教育課、学校支援課、子ども支援研究センター、給食管理課